

質問事項		記述式回答
来年秋を見据えて、現在の景気の基調		
1	9月16日の経済財政諮問会議において、2015年秋を見据えて、現在の景気の基調を見る際、以下の5項目について今後注視すべきとされました。これらを参考に、現在の景気の基調や考慮すべきリスクをどうご覧になっているか、また、とるべき対応があれば、合わせて300字以内でご記入ください。 ① 消費の安定的増加、それを支える雇用者数・賃金の伸び(正規比率の上昇を含め)や消費マインド ② 企業収益の動向、民間設備投資の強さ(設備投資計画の動向も含む) ③ 輸出入の動向、交易条件の動向 ④ 物価動向(一時的要因を除いた実勢と期待物価) ⑤ マーケット(株価、為替、金利等)の動向	景気は足踏み状態にあると認識している。雇用者数や名目賃金は改善しつつあるものの、消費の力強さは依然感じられない。ただし、小売業販売額の季調前月比は8月が+1.9%、9月が+2.7%となり、回復の兆しも見られる。企業業績については、経済同友会実施の2014年9月景気定点観測アンケートによると、7-9月期、10-12月期ともに、「増益」を見込む回答が「減益」を上回っており、堅調な推移が見込まれる。企業は業績改善を賃金向上につなげ、それが消費増をもたらし、再び業績改善につながる循環確立が期待される。なお、世界経済を委縮させる要素として、感染症の拡大、地政学リスク顕在化への警戒をより強める必要がある。
地方創生・地域活性化		
2	地方創生・地域活性化に向けて、重点的に取り組むべき課題及び対応策につき、ご自身(自社)の知見・経験も踏まえてお考えを300字以内でご記入下さい。その際、地方が抱える課題の背景についても、併せてご記入下さい。	地元の教育改革に協力した経験がある。幼稚園、保育園、児童館、保健所など、子育てに必要な組織・人員は整っているものの、各主体がバラバラに運営していたために必ずしも効果が上がっていなかった。そこで、各主体が提供するメニューを整理し、保護者に提示することで、地域における子育て活性化につなげることができた。各地域あるいは各組織内などの既存の枠組み内だけで議論していても解決策を見出すことは困難であり、国内他地域の人材や、外国人留学生・研修生、JETプログラム参加者、海外現地法人勤務経験者などの人材に議論に参加してもらい、新たな視点を導入する取り組みが重要である。
その他		
3	10月下旬の為替相場は107円台付近で推移しています。最近の為替相場の動向やその景気への影響について、ご見解があれば300字以内でご記入ください。	一般に、内需型産業にとっては円高が望ましく、外需型産業にとっては円安が望ましい。つまり、全ての主体が満足する為替水準は存在しない。従って、過度な円高も、過度な円安も望ましいものではなく、ファンダメンタルズに見合った水準にあることが望ましい。 また、急激な相場変動が経済活動を委縮させる懸念があることも事実である。自国の政策のみで相場変動を抑制することはできず、また、その備えは各経済主体が自ら整えるべきものであるが、経済政策実施主体には、市場に過度なボラティリティ上昇が生じないよう、各国政策対応を注視しつつ、連携も強化することを期待したい。